

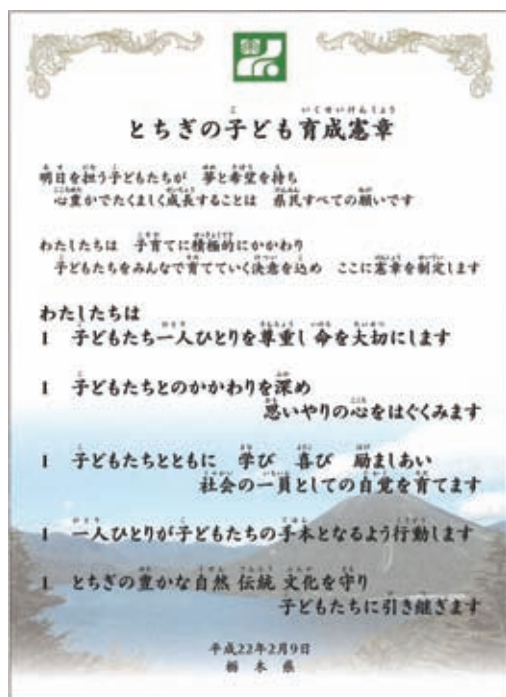
## 振り返ってみましょう

- |                                    | YES                      | NO                       |
|------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ○「ありがとう。」「ごめんね。」を<br>気持ちを込めて言っている。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ○子どものとき、親から言われて<br>うれしかった言葉がある。    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ○子どものとき、親から言われて<br>やる気をなくした言葉がある。  | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ○家族みんなで過ごす時間を<br>大切にしている。          | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ○子どもの前では人の悪口を<br>言わないようにしている。      | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ○子どもの無理な要求に<br>応じてしまいがちである。        | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

## どう言っていますか？

- |                 |   |               |
|-----------------|---|---------------|
| だから無理だって言っただしよ！ | ← | お手伝いしたかったのよね。 |
| 早くしなさい！         | ← | がんばってやろうね。    |
| 何回言ったらわかるの！     | ← | よ〜聞いてね。       |

栃木県は、とちぎの子どもを県民みんな  
で育てるために、「とちぎの子ども  
育成憲章」を制定しました。



## 子育て中の方へ

### 一言メッセージ

作新学院大学 人間文化学部  
教授 伊達 悦子

「先生が僕を叱るのは僕のことかわいいと思っ  
ているからだよね。」と言った子がいました。こ  
う言えたのは、先生への安心感があったから  
でしょう。就学前のお子さんの子育ては、波  
乱の連続かもしれません。分かってい  
るかと思えば、そうでもない。思  
いもかけない行動でハラハラ、ドキ  
ドキの連続だったりするでしょう。でも、そ  
うしたことを繰り返しながら人生の基礎工  
事をしていくのです。基礎工事を終  
えていないと人生の屋台骨が安定しませ  
んので、「待つ」ことを心がけましょ  
う。

子どもは、ご両親の表情に一喜一憂する  
ものです。子どもが安心して頼りにでき  
る「信号機」になれるといいなと思  
います。信号機は、安全や危険を知ら  
せてくれるのです。叱ることは危険を  
知らせる身を守るために大切なこと  
ですが、そればかりですと、「叱られる  
自分」を親に見せまいとして隠すも  
のです。ご両親が「自分を守ってく  
れる」ことを通して、子どもは「自  
分を大切にすること」を覚えますし、  
ご両親の期待に応えたいとも思っ  
ています。その日が来ることを楽  
しみに待ちましょ

お子さんの笑顔や何気ないつぶやき  
などで、子育ての疲れを癒してくだ  
さい。その癒された表情が、今度は  
お子さんに安心感をもたらすので  
す。

# とちぎの幼児がグングン育つ 家庭教育のすすめ

## — やさしく元気な子どもを育てるために —

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。日々の生活の中の経験が子どもたちの生きる力につながります。

家庭では、子どもの中に育っている力を受け止めて関与することが大切です。

「やろうとする意欲」や「人とかかわる力」を育てる保護者の役割について考えてみましょう。



確かな学力

豊かな心

健やかな体

## とちぎの教育が目指す子ども像

- 心身ともに健康な子ども
- 主体的に考え表現できる子ども
- ねばり強く頑張る子ども
- 自他の存在を尊重し協同する子ども
- すすんで社会とかかわり行動する子ども



とちぎの幼児がグングン育つ 家庭教育のすすめ  
— やさしく元気な子どもを育てるために —

平成23年3月発行

発行者 栃木県幼児教育センター 〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070  
TEL 028-665-7215 FAX 028-665-7216  
URL: <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/>



栃木県幼児教育センター

## すすんでやろうとする子

「うちの子、すぐに『やって!』と言うのよ。」  
「あら、うちは、なんでも『やりたい!』なの・・・」

### 自分で靴を履こうと頑張るAちゃん

やっと園に慣れて、自分で履こうとしているわ。

ごめんね。時間がないから、待てないの。

今日は履けるまで待ってよう。

座って履けるように、台を用意しようかな。



そろそろ左右の違いに気付くかな。

Aちゃんを見て、他の子ども真似してほしいな。

あきらめずに頑張るようになったのね。

保護者の方の  
このような声を  
よく耳に  
します。

子どもの、もう一つの生活の場である幼稚園や保育所。このようなとき、先生は子どもの気持ちをどう受け止めるのでしょうか。

子どもの育ちや発達に沿って、受け止め方も変わってくるのですね。

## 友達とかかわろうとする子

「うちの子、園でお友達とけんかしていないかしら?」

### けんかをしたBちゃんとCちゃん

やっと関わりが出てきたわ。

何が言いたかったのかな。

どちらにも言い分があるのよね。

初めて「いや!」って言えた。すばらしいわ。



お友達が仲裁に入るといいな。

どうやって仲直りするかな。そっと見ていよう。

お互いに言いたいことを言えるのが大切よね。

### このような時期です

#### おおむね3歳

身の回りにある、はじめてのことに挑戦しようとする気持ちが芽生えます。時間が経っても自分でやったことに満足感を味わいます。着替えや食事など、自分でやりたい、選びたいという気持ちが強く表れる時期です。

#### おおむね4歳

やりたいことがさらに広がってきます。自分がやったことへの満足が次への挑戦意欲になります。失敗しても、次はどうすればできるだろうと考えます。工夫したり、試したり、新しい方法でやってみようとする時期です。

#### おおむね5歳

できた、がんばった、やってよかったという気持ちがあふれます。さらに、がんばった自分に自信をもつことが、やろうとする意欲を支えます。様々な知識や経験を生かし、工夫しながら難しいことにも挑戦しようとする時期です。

なるほど

そうなのね

### このような時期です

#### おおむね3歳

やりたいこと、好きなことなど自分の思いがはっきりしてきます。自分の気持ちを様々な方法で表現するようになってきます。それぞれが自己主張をする中で、おもちゃの取り合いなどが起こる時期です。

#### おおむね4歳

楽しさや嬉しさ、悔しさ、悲しさなどいろいろな思いを経験します。友達との遊びが楽しくなるので、ぶつかり合いも多くなりがちです。また、相手には自分とは違う思いがあることに気付く時期でもあります。

#### おおむね5歳

様々な友達関係の中で、楽しく過ごすことや思いどおりにならない経験を重ねます。自分の考えを主張しながらも相手の思いを受け入れようとします。トラブルを、自分たちで解決しようとする時期です。

### 「やろうとする意欲」を育てるには

「やって!」と言う子は、何か不安を抱えているのかもしれません。できたことをほめ、自信をもたせましょう。「やりたい!」と言う子には、その気持ちを大切に、納得するまで取り組ませましょう。また、失敗して自分に出来ないことがあると知ること経験のひとつです。結果にこだわらず、やろうとする意欲を認め、子どもが自分で出来るかどうかを見守ることも大切です。

「大好きなお父さん、お母さんのようになりたい!」が子どものやろうとする意欲の大きな原動力になります。生活の中で、子どもたちがあこがれるような姿をたくさん見せてください。

### 保護者の役割

### 「人とかかわる力」を育てるには

子どものけんかやトラブルは、人との関わり方を学ぶ大きなチャンスです。友達に伝えたかった本当の気持ちや、仲直りしたい気持ちを受け止める保護者の支えが必要です。解決することを急がず、子どもと一緒に子どもの気持ちに沿った解決の方法を考えることが大切です。

人との関わりをつくったり深めたりする言葉やしぐさはたくさんあります。近所づきあいや出かけたときなどの親の姿を子どもはよく見ています。常に大人自身がその姿を振り返ってみましょう。「ありがとう」や「ごめんね」と気持ちを込めて言ったり言われたりすることを家庭でも経験させましょう。

ポイントは **子どもの中に育っている力を信じて、急がずに、じっくり見守り、待つことです。**